

5月10日(火), 櫻井先生の6年生理科「人や他の動物の体」の授業研が行われました。今回の授業を通して、今年度の研究の方向性について、より具体的な方策や課題が見えてきて、大変有意義な研究になりました。授業を提供してくださった櫻井先生、ありがとうございました！

研究協議から

少人数協議～各グループからの発表～

Aグループ

- グループから他のグループへ移動しての発表は低位の子も上位の子も理解しやすかったのではないかな。
 - 話すうちに「もっと知りたい」となれば良いが、児童一人一人が強い課題意識をもつまでは行かず、動機付け(意欲付け)が少し弱かったのではないかな。
- 考察では一部の児童の発表だけあったが、教師による情報の整理があればもっと結論に結びついたのではないかな。



Bグループ

- 相手に伝えようという意識があり、情報交流に進んで臨んでいた。
 - 話し合い活動でよく聴いていたことで、どの子も考察にまとめることができていた。
 - 低位の子にとって、聴きながら書くことは難しい。
- まとめで児童が調べた結果が板書で整理されていたのがよかった。

Cグループ

- (時間を余りかけない導入場面は)シンプルで良かった。
- 話し合い活動では、児童が意欲的でよかった。
- グループ移動前に確認したり、調べた結果に自信をもち知り得たことを伝えたいという喜びがあったりして、話し合い活動に大変意欲的であった。
- 友達の意見をよく聞きながら、新たな部分について付け足して、よく聴いていた。
- 聴く力が身に付くような工夫としては、聴くと書くの線引きが難しいと感じた。



Dグループ

- 予想に立ち返って考えることで、強い課題意識があった。
- 話し合いの時間を制限することは、教材として有効であった。
- 小集団活動を行うことが、協働・学びにつながっていた。

- 課題を焦点化するとよかったのでは。
- 自分がグループの代表として発表し、友達の発表を聞いてノートに追加修正はできたが、グループでの考察が無かったため、思考の深まりは個人にとどまった。
- 聴く力は小集団でも全体でも身に付いていた。

今後の取り組みに向けて

協議から、成果と課題についてまとめてみました。

～成果～

- 小集団による話し合い(ワールドカフェ方式等の取り入れ)は、活発な意見交流ができる。
- 話し合い活動の際に時間制限を設けることは、有効である。

～課題～

- 課題意識のもたせ方

「児童一人一人が強い課題意識をもつことができるような教材や発問の工夫」をどのようにしていくか。

- グループ交流を取り入れるなら、どこで、どれだけ、入れていくか。(時間配分、設定の仕方)
- どのように児童の思考を深めていくか。
- 聴きながら書く、聴く、書く、交流の際にどのように取り組むことで集中させるか。
- 課題の焦点化

お知らせ

今後の予定は

6月1日(水)ブロック研

6月15日(水)2時間目 2年2組 須郷先生「算数」
5時間目 3年1組 福嶋先生「書写」の授業です。

*放課後、研究協議を行います。